

中国企業の海外直接投資のパターンと決定要因について

秋田県立大学 宮本 道子

秋田県立大学大学院 魯 欣

秋田県立大学 嶋崎 善章

中国経済は、1978年末の開放政策への転換以降、1980年から年率9%で成長し、中国からの輸出は、2005年から2008年の上半期までの間に22%ものハイペースで伸びた。中国経済の高成長を支えてきた重要な要因として、積極的な外資導入、特に外資系企業による直接投資の受け入れが上げられる(姫梅 2006)¹。その一方、中国企業による対外直接投資は、資本規制の一環として厳しく制限されたこともあって、非常に小規模にとどまっていたが、近年、純粋な利益拡大化のための企業行為ではなく、産業政策や安全保障といった中国政府の意図も反映し、急速に増えてきた(関 2008)²。

2006年度中国対外直接投資統計公報によると、全世界に対する中国企業の直接投資は合計で約176億ドルに上り、前年度比で43.8%の伸び率となり、2004年度(55億ドル)と比べると3倍以上となった。

1976年から1987年に掛けて日本企業によるアメリカの製造業の直接投資の増加が見られたが、そのときは日本における技術的優位性と技術資産が日本企業の海外直接投資における決定要因として見られた(Kogut and Chang 1991)³。Kogut and Chang (1991)は、海外直接投資と無形資産であるマーケティング能力、本国政府の政策、アメリカ子会社の経済活動の大きさの関連性などについても触れている。

中国企業の海外直接投資にはどのようなパターンが見られるだろうか？産業によって、また投資先によって、どのように行動しているだろうか？中国企業の海外投資活動は、アメリカ、ヨーロッパ、日本において同じであろうか？中国企業の海外投資活動は、先進国による海外直接投資活動と同じであろうか、また、どう異なっているであろうか？中国企業が海外投資をするときは、何に焦点を当てているのだろうか？

本研究は、これらの疑問に対し、Ozawa(1979)⁴が提案したFDI理論を用いて、中国企業の海外投資のパターンとその決定要因について考察する。

また、中国企業の海外直接投資は国有企業が多いので、その影響についても調べてみる。

¹ 姫梅「中国経済における外資系企業の役割」大阪産業大学経済論集 Vol.7, No.3(20060630) pp. 421-435.

² 関志雄「本格化する中国企業の対外直接投資」中国経済新論—世界の中の中国。
<http://www.rieti.go.jp/users/china-tr/jp/080205world.htm> 平成 21 年 3 月 11 日確認。

³ Kogut, Bruce, and Sea Jin Chang. (1991) "Technological Capabilities and Japanese Foreign Direct Investment in the United States," *Review of Economics and Statistics* 63, Aug., 401-413.

⁴ Ozawa, Terutomo. (1979) "International Investment and Industrial Structure: New Theoretical Implications from the Japanese Experience," *Oxford Economic Papers*, 31 (March), 72-92.